



創誠健和

旭川中学校 学校通信 12月号



令和4年12月23日発行

よいお年を！

今年の漢字『戦』



今月12日に、一年の世相を漢字一文字で表す「今年の漢字」が清水寺で発表され、『戦』に決まりました。

『戦』、ロシアのウクライナ侵攻により、「戦」争の恐ろしさを目の当たりにした一年であり、物価高による生活上での「戦」いや、サッカーワールドカップなど、スポーツでの熱「戦」・挑「戦」などが注目されたところが理由とのこと。

旭中も同様で、学習活動はもとより、中体連や各種コンクールで今年も見事に戦い抜き、多くの素晴らしい成果を収めてくれました。この成果は市内に止まらず、管内、全道、全国へと活躍のステージをあげました。生徒の頑張りに拍手を贈ると共に、保護者の皆様、そして、生徒の活動を何時も温かく支えてくださる学校運営協議会のメンバーをはじめ、あさひやまの地域の皆様に、改めまして、心より感謝申し上げます。

本当にありがとうございました。

そんな中、旭中の今年の漢字は、「戦」に加えて、創誠健和の「創」ではないかと考えております。笑顔で挨拶ができる生徒、私が「挨拶素晴らしいね。」と言うと、自然に「ありがとうございます。」と返ってきます。彼らはこの12~14歳になるまでのどこかで、誰かに教えられているのです。教え育まれているのです。このことに素直に感謝しなければなりません。この基本的な素敵な実践があって、旭中生は新たなコロナ禍における多くのLegacy(レガシー)を『創』り上げてくれています。新たな年も、旭中生一同、笑顔と素敵な挨拶をベースに「世界一の優しい学校」を目指して、新たな伝統を『創』って参ります。



Only One !

自分色の花を咲かせよう

「春の暖かさとともに、桜の季節が待ち遠しく感じる頃となりました。」と、桜の話題からスタートした学校通信「創誠健和」ですが、桜が散った後には、濃い緑色の葉っぱをたくさん付け、学び舎の窓から見える桜の木々たちは、何時も子どもたちに活力を届けてくれています。

そんな木々も、今はすっかり葉を落としてしまい、冬枯れの枝に雪が積もっています。

しかし、よく見てみると春にきれいな花を咲かせるためのつぼみを枝に付けています。一見、枯れた枝のように見えていても、樹木は自然の摂理に従って、「着実に変化しているのだな」と、改めて感心したところ。

他の木々を見ても今は葉っぱのない小枝ばかりが目につきますが、その小枝の一本一本は、この厳しい冬の季節にあっても、すでに来年の春の芽吹きを準備を着実に始めています。

少々古い話になりますが、2000年に開催されたシドニーオリンピックで、日本人初の女子マラソン金メダリストになった、高橋尚子選手は監督に「何も咲かない寒い日は、下へ下へと根を伸ばせ、いつか大きな花が咲く」の詩を教えてくださいました。高橋選手はこの詩を練習後に自分に言い聞かせ、苦しい練習に耐え、世界一という栄冠を手に入れました。私がこのエピソードを知った当時は、春にきれいな花を咲かせるために、寒い冬にじっと絶えながらも、しっかりと花を咲かせるための準備をしている、この時期の桜と似ているなあと感じたものでした。

我が旭中生も、今、この枝のように学習でも運動でも、こつこつと地道な取り組みを積み重ね、素晴らしい花を咲かせるために、次の学期、次のステップに向け、着実な準備を進めています。来春には、自分にしか咲かせることのできない、素敵な自分色の花を咲かせてほしいと心から願っております。今年の年末年始は寒さも厳しくなりそうです。このあさひやま地域が穏やかに新年を迎えることが出来るよう、心より祈っております。

生徒の皆さんへ

『何苦礎』精神

受験生、そして冬休み中に旭中を代表して部活動での大会に参加する皆さん、さらには、この年末年始で力を蓄え立派に成長しようとする全旭中生！「何苦礎」この漢字は、なんと読むでしょうか？「なにくそ」と読むそうです。

もちろん、こんな漢字はありません。これはプロ野球選手だった田口選手がつくった造語だそうです。田口選手は既に引退しており、知っている人も少ないのではないかと思います。日本では「オリックス」、メジャーでは、当時「カ

ーディナルズ」で活躍した選手。この選手は、順風満帆にプロ野球人生を歩んできたわけではなく、入団当時は、オリックス球団にドラフト1位で入団したにもかかわらず、同じ年のドラフト4位で入団した「イチロー選手」に脚光を奪われてしまいます。そんな田口選手がメジャーに挑戦したとき、誰もが「無理だろう」と思ったそうです。案の定、開幕を待たずにマイナーに落ちてしまい、厳しい環境に身を置くことになりました。

しかし、田口選手は地道な努力を続け36歳で見事、当時、日本人では誰もなしえなかったワールドチャンピオンの称号を手にしたのです。

さて、この「何苦礎(なにくそ)」ですが、田口選手が日々の厳しい練習に耐えていたマイナー時代に、思いついた言葉だそうです。「何でも苦労が基礎になる」という意味。

苦労に負けずに、「なにくそ」と頑張る田口選手も素敵ですが「苦労が基礎となる」と考える「謙虚な姿勢」がとても立派だと感じました。この「謙虚さ」が田口選手に大きなタイトルをもたらしたのかもしれないと思っています。いよいよ明日から冬休みに入ります。新たな年を迎えるにあたって、3年生は進路に向かっての準備を、2年生は本校の最上級生となるための準備を、1年生は新入生にとってよき先輩となるための準備を、それぞれ目標は異なりますが、是非ともこの「なにくそ」(何でも苦労が基礎となる)の精神で、一人一人がこの冬休みに努力して欲しいと思っています。



2年『福祉学習』車椅子ラグビー



生徒会『中連生活部12月例会』生徒会交流

保護者の皆様へ【命に関わる緊急連絡について】

学校閉庁日期間に、お子様がコロナに感染(家族内感染以外)した場合、または、お子様が命に関わる病気になったり、事故等が起きたりしたときには、以下へ連絡してください。(例: コロナ、交通事故、行方不明等)

【学校閉庁日期間】12月29日(木)~1月3日(火)



緊急メール: kinkyu@asahikawa.jhs.asahikawa-hkd.ed.jp

①学年・組 / ②生徒氏名 / ③発症日・症状 / ④連絡先の電話番号

※緊急メールのアドレスは、マチコミメールにも掲載しており、すぐに送信できます。



「寅千里を走り、卯は跳ねる。」という格言がありますが、ウサギは跳ねる特徴があるため、景気が上向きに跳ねる、回復するなどとも言われます。また、ウサギは、穏やかで温厚な性質であることから、「家内安全」!その跳躍する姿から「飛躍」、「向上」等々、新しいことに挑戦するのに最適な年などとも言われているようです。

2023年がこの「あさひやま」にとって素敵な飛躍の年となりますよう、改めまして、心からお祈り申し上げます。今年もありがとうございました。良いお年をお迎えください。 hamanaka masashi